

83. 積層回路

～ 都市における新たなネットワーク ～

06168005 上内陽介
指導教員 市川尚紀 講師

観光 空間 動線 交流

1. 設計主旨

姫路市は、国宝であり世界遺産でもある姫路城により国内は勿論、海外からの観光客も多い。しかし、姫路城ばかりが観光客の目に入り、姫路という町自体に目を向けている人が少ないように思える。観光の魅力というのは名所巡りだけでなく、地元の人々との交流もまたその一つではないだろうか。そのために観光客と地元住民の動線が接する空間を提案したいと考える。

姫路駅と姫路城をつなぐ幹線道路沿いに観光客の動線、その一区画隣の商店街に地元住民の動線が集中している。そこで、並行する幹線道路と商店街の間に、城に次ぐシンボリックな複合施設を作ることで2つの動線の接点を作る。そこには商業施設に加えオフィスや滞留スペース、ギャラリーが設置される。さらにこの施設を介することで観光客と地元住民の動線の境界が曖昧になり、様々な出会い・交流が行われ、それが新たな観光スタイルとなり地域の魅力となる。

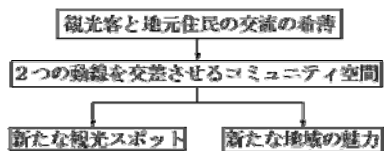


図1 コンセプトダイアグラム

2. 計画地概要

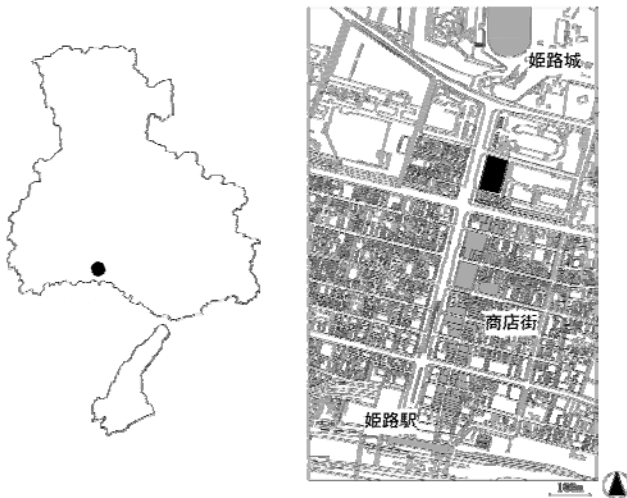


図2 計画地配置図

2.1 姫路城

駅北へ約1 km に世界文化遺産・姫路城が位置し、播磨地域を打表する中心拠点となっている。姫路市の重要な観光資源であり、一年を通して多くの観光客が訪れる。京阪神からの交通の便の良さから日帰りの観光客も多い。

2.2 城下町

藩政期には、姫路城を中心とした城下町が広がっていたが、経済発展の陰で古い文化遺産である伝統的な町並みや道路の破壊が行われてきた。その結果、薄っぺらなどこにでもあるような町にかえられてきた

2.3 商店街（みゆき通り）

JR 姫路駅と姫路城を結ぶ幹線道路である大手前通りの一筋東側に並行するアーケード商店街である。最近では郊外店舗との競合で一時的勢力は失われたが、姫路市街地の商業軸としての位置付けは揺るぎない。

2.4 現状・問題

- ・憩い・座る場所が不十分であり、集い・交流の機能に欠けている。
- ・緑・水などの自然要素、重要なアメニティ要素も少なく、町に目を向けるキッカケがない。
- ・計画敷地内は老朽化した木造低層商店街が密集して周回の町並みからは浮いた存在になっている。
- ・土地の利用状況が非常に不健全であるため都市機能上また都市景観上の阻害要因となっていて、激変する現代の都市公害に対する遅れが目立っている。

3. 計画内容

3.1 過去との比較

城下町は付近を通る幹線道路のコースを城下に通じるように付け替えることにより従来が城下を通り、商工業を活性化させる効果を持つ商業都市機能と、敵を容易に侵入させないため、道を鍵状に曲げたり袋小路になっていたりと、都市防衛機能の工夫が随所に見られた。これらの機能のネガティブな部分を排除し今あるべき形で施設に導入し、現代のスタイルで建築する。

3.2 見下ろされる建築

積層化された建築は高層化された建物が建ち並ぶ周辺地区へ浸透する。通りを歩いている人のアイ・レベルでは他のビルにまぎれて気付かれにくい、観光客が城の天守閣に登り街を見下ろしたときに認識され、立ち寄られるようになる。城に次ぐシンボルの施設となる。

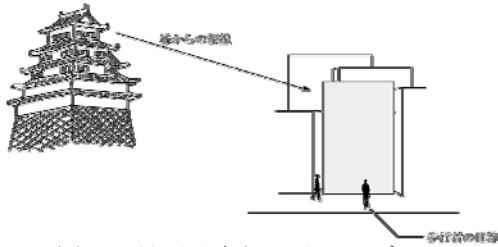


図 3 見下ろされるイメージ

3.3 積層

建築物が積層されると同時に、路地空間も積層する。横への広がりだけでなく縦への広がりも加え、立体的な路地空間にする。これにより平面だけで行われてきた、人々の動きの自由度を上げる。

3.4 中間領域

計画敷地は都市の象徴的な存在である交通空間に挟まれた中間領域で、計画施設は観光客と地元住民、建築と周辺地区、文化と歴史の中間領域となり、点と点、線と線をつなぐ建築となっている。

3.5 路地空間

路地空間とは、住宅や商店などが立ち並ぶことでできた自然発生的な道である。本計画では単調な一本の道ではなく、機能を配置していく上で意図的に発生させたスケールの不整形な隙間を路地空間とする。



図 4 路地形成の過程

3.6 動線の複雑化

本計画は、動線を複雑化させることにより様々な場所に人を導くことを重点とする。回遊性・迷路性をもつ動線に人々は興味を示し、足を踏み入れる。さらに複雑化された回路の中で、道を尋ねるといようなほんの些細なことが交流活動の原点となる。

3.7 滞留スペース

歩行空間があるだけでは交流活動は生まれにくい。そこで人々が快適に楽しく過ごす環境と、自然に溢れ景観への配慮が行き届いた環境を計画する。つまり、人々が憩い・集い・語らう交流空間と、緑あふれる美しい景観

をあわせ持つ空間を形成する。これにより、交流機能と景観機能が満たされ滞留性が生まれる。

3.8 メゾネット

メゾネットタイプの店舗にすることにより、支払いを済ませると自然と別の階へと導かれるようになる。これにより、積層化された路地空間全体に動線が張り巡らされる。



図 5 メゾネットタイプの店舗

3.9 導入する機能

計画敷地内には多数の商店が軒を連ねている。しかし、現状としてそのほとんどが老朽化し、錆び付き、周辺の商業地区から取り残されている。そこでこれらの店舗を対象に立て替える計画し、施設に導入する。

さらにイベントスペースやギャラリー、オフィスを設けることにより様々な目的を持った人々が集まる場所となる。

主な機能…レストラン、雑貨屋、服屋、土産屋、本屋、美容室、食料品店、カフェ、おもちゃ屋、CD ショップ、ギャラリー、オフィス、イベントスペース

4. 総括

本計画は観光客と地元住民に対し交流活動の場を設け、観光客にとっては新たな観光スポットを提供し、地元住民にとっては新たな地域の魅力を提供する計画である。同時に、施設を通すことで様々な人の動線を周辺地区へ誘導することにより、施設の中だけでなく周辺地区全体へ交流活動のキッカケを排出する。

都市空間の中で忘れられ目的を失いつつある場所が本計画により再び賑わいを取り戻し、さらに周辺地区の商工業の活性化に繋がることを期待する。さまざまなものが高速化され点から点へ瞬時に移動し、人々の交流さえも希薄化している現代社会にとって本当に必要なのはこの途中経過の領域なのではないだろうか。

建築概要

所在地：兵庫県姫路市

主要用途：複合商業施設

構造：RC 造

規模：3540 m²

敷地面積：4510 m²